

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○よく使われる敬語を理解していることが分かる。

●送り仮名に注意したり、漢字を文の中で正しく使ったりすることを苦手としている傾向がある。

《情報の扱い方に関する事項》

○全国平均と比べても特に正答率が高く、原因と結果など情報と情報との関係について理解している。

《話すこと・聞くこと》

○話し手の伝えたいことを捉えたり、自分が聞きたい内容に合った質問をしたりする力が身に付いている。

《書くこと》

○図やグラフなどを用いて、情報が伝わるように書き方を工夫することができる。

●自分の考えをまとめ、表現することに課題がある。

《読むこと》

○目的を意識して中心となる語や文などの必要な情報を見つけたり、要約したりすることができる。

【 算数 】

《数と計算》

○正答率が高く、基本的な計算能力が身につけていることが分かる。

●2位数÷1位数の筆算について図を基に各段階の商の意味を考える問題の正答率が下がる傾向にある。

《図形》

○正方形の意味や性質について理解している。

●図形を構成する要素に着目すること、図形構成について考察することなど、問題を解決するための諸要素に見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明することに課題がある。

《変化と関係》

○比例関係を活用したり、割合を求めたりするなど、二つの数量の関係について考察する力が身に付いている。

●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

《データの活用》

○資料から必要とする情報を取捨選択することができている傾向にある。

《児童質問紙 算数に関する質問》

○算数の学習を、実生活と結び付けて考えたり、その有効性を実感したりしている児童が多い。

【 児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等 】

○自己肯定感がある児童の割合が、国や県と比較し高い。

○学習で躓いたとき、教師が教えて助けてくれるという安心感をもっている児童が国や県と比較して高い。

○学校の授業以外で（塾を含む）勉強をしていると答える児童が国や県と比較し高い。

○ICT 機器が自分たちの学習に役立つと自覚している児童の割合が、全国や県と比較して高い。

○5年生までの学習で、自分の考えがより伝わるように表現の仕方を工夫することができていたと自己評価をしている児童が国や県と比較し多かった。

○地域や社会のために何かしてみたいと考える児童の割合が全国や県と比較しても高い。

●先生が、自分の良い所を認めてくれていると回答する児童の割合が県や国に比べてやや低い。

●全国や県全体に比べ、いじめに対する危機意識が低い。

●将来の夢や目標を持つことができていない児童が国や県と比較してとても多い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・日々の生活の中で、児童一人ひとりのよさを価値付け、引き続き自己肯定感を高めていくとともに、教員が児童の良い所を積極的に認めるようにする。
- ・表現をする学習の際は、自分の考えを他者に伝え、より理解してもらうことを考えながら取り組めるよう学習内容を工夫する。
- ・学習塾に通っている児童とそうでない児童が半々の割合で在籍している実態があり、学習の際には学力差や学習進度差があっても個々に最適な学びができるよう指導内容を吟味する。
- ・今後も ICT 機器の有効的な活用方法を指導し、実践することを通して ICT を使用することによって学びがより広がったり深まったりするという経験をさせていきたい。それとともに、どういう場面では、ICT を活用する有効ではないのかについて考える経験を積み重ねることにより、ICT をより効果的に活用できるようにする。
- ・今後も自分たちが暮らしているまち逗子市をよりよくするために考え、自分たちができることを実践する学習等、地域を主題とした単元を取り入れ、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・道徳の学習や学校生活アンケート等を活用して、いじめに対する意識を高める指導をする。
- ・キャリア教育の充実を図ることで、明確な将来の夢や目標まではいかなくとも、これから先に見通しや自分の意思を持てるようにしていく。